

特別企画

都市・地域ゼミ版～ボクらの時代～

No.04
2019.5

-contents-

- 2.巻頭言
- 3.ゼミ内教員・学生の活動
- 4.平成30年度卒業研究・卒業設計
- 5.平成30年度修士研究
- 6.鼎談【都市・地域ゼミ版～ボクらの時代～】
- 7.卒業生・修了生の紹介、平成30年度祝賀会
- 8.OB・OG紹介、都市計画学会、矢島冬祭り

URPS

URBAN & REGIONAL PLANNING Seminar.



第三の都市計画

●第三の経済

経済分野は素人であることを、ことわっておく。まず、「第一の経済」として実体経済がある。これは、商品やサービスの生産、販売や設備投資など、具体的な対価がともなう経済活動ということらしい。次に、「第二の経済」として資産経済がある。これは実体経済から派生した金利や、金融取引、信用取引、オプション取引など、資産の移動自体がもたらす利益活動ということらしい。最近では、人工知能（AI）を搭載したコンピューターを使い、1秒間に数千回とも言われる頻度で株の売買を繰り返して利益を得ている輩がいるとのこと。

1980年代ごろまでの社会は第一経済が中心で回っていたが、現在はどうも第二の経済がクローズアップされている。以前に話題となった村上ファンドは、時代の徒花ですまされそうにもない。そして、その一方で「第三の経済」も以前から語られ、一部ではあるが社会で動いている。理念と持続性を持った経済で、フェアトレードなどはその典型であろう。あるいは生産と消費を小さな地域でまわすマイクロエコノミー等もあり、共生の経済とも言われている。

●第三の都市計画

都市計画は、専門である。

まず、「第一の都市計画」、これは1888年の東京市区改正から1968年の都市計画法の実践で構築されてきた都市計画であり、基盤都市計画と言えよう。次に「第二の都市計画」、これは1980年の地区計画に代表されるもので、合意都市計画と言えよう。ここから、まちづくり条例や土地利用条例が派生した。

では、人口減少とIoT化の現在、「第三の都市計画」は登場しているか？リノベーションまちづくりは地方都市まで浸透してきているが、これは都市計画とは言えないだろう。また、景観計画、歴史まちづくり計画、立地適正化計画等と都市計画の関係はどうなっていくのだろうか？

●共存、組み込み、再構成

経済にしても都市計画にしても、第一が完全に意味をなくし第二、そして第三へと移行していくわけではない。淘汰されるのではなく、その時々状況に合わせたバランスで共存するのである。

しかし、残念ながら「第三の都市計画」がハッキリしない。「民間活動における公益性」が一つのキーワードであるように思えるが、それを第一、第二の都市計画に組み込んでいくのか？はたまたそれらを通して都市計画体系・体制を根本的なところから再構成していくのが第三の都市計画なのか？

いずれにせよ、第三の都市計画の輪郭は、出てきそうで出てきてない、そんな状況だ。

山口 邦雄(やまぐち くにお)
都市・建築計画学研究グループ



なぜ私は日本に来たんだろう

昨年度は初めて先生の立場で卒業式に参加した。卒業生は4月から進学・就職し、人生の新しいスタートに立つようになったと考えられるが、そうではないケースもあるかもしれない。自分にとっては日本への留学が人生の新しいスタートだとよく言われたが、実はそうじゃない。

大学を卒業した後、憧れの北京で就職した。中国語に「上京」と言う表現がないが、当時の私は確実に「上京」だった。小さな建築設計事務所で働き、もちろん残業ばかり。北京の冬は乾燥で寒いだが、晴れの日が多い。当時の北京はPM2.5もひどくなかったし、暇な時に日向ぼっこをするのは一番気持ちよかった。

しかし私の日向ぼっこはいつも連続の徹夜が終って家に帰るバスの中にした。疲れすぎで、日向ぼっこの気持ちも良すぎでバスに爆睡してしまったことも少なくない。きっと辛かったと思いませんか？いや、全然辛くなかった。むしろ好きな町で好きな仕事に楽しんでた。でもなぜ私は日本に来たんだろう。

「もうお昼だよ。まだ寝ているの？」と中学時代の大親友からの電話があった。「残業後の帰りのバスにいる。」と返したら、親友が大笑って「仕事は永遠に終わらない。でも世界が広い。二人で一緒に日本へ行かない？」と言った。日本語専門の彼女にとって日本への留学は当然だが、日本の建築家とドラえもんしか知らない私にとっては日本への留学ってどうしてもおかしいと思った。

親友は日本へ留学できる可能性が日々説明して最後に「あなたが行ったら絶対日本のこと、好きになるよ。信じてください。」と断言した。親友に信じないわけがないだろうと思って「うん、やってみよう」と決断し、働きながら日本語の勉強を始めた。

日本へやって来たのはその電話からの2年後だったが、結局私は一人で来た。そして、長い年月の貧乏な留学生活が続いた。親友は留学の準備中にプロポーズされて結婚した。そして、子供が生まれた。今の私は日本が好きになった。今の親友は相変わらず日本が大好き。ここまで読んでくれた方が笑っちゃったかもしれないが、ご覧の通り、私は親友を信じるから日本へ留学に来た。その一本の電話は私の人生の新しいスタートかもしれない。

人生の新しいスタートはいつ来るのかわからないから一緒に楽しもう。

李 雪(り せつ)
都市・建築計画学研究グループ



教員・ゼミ学生の活動

☆今回のN.L.は通算すると21号目です。

表紙の写真「首里城」Photo By 山口邦雄

今回も厳正なる表紙コンテストの結果です。沖縄都市モノレール線（ゆいレール）から見る首里城は、マカオにあるモンテの砦のように雄大でした。

西に東に、重伝建調査 山口邦雄 教授

ここ数年、重伝建地区で歴史的町並みの保存・活用に取り組む住民等組織の研究を進めてきた。昨年度の7月以降は、地区内の建物等の現状変更行為に対して住民等組織が相談、審査等を行っている地区に出向き、現地踏査とヒアリングを精力的に実施した。

どの地区でも住民等組織の代表者、担当行政職員の方々の熱意が伝わってくる。高山市三町地区では、山車の曳航単位を基礎に町並保存会があり、伝建三町地区内で12の保存会、その他に10の景観保存会があるという。東洋・西洋を問わず外国人ビジターの多いことにも驚かされた。竹富町竹富島地区では、内地の重伝建地区とはまったく異なる町並みで、白いサンゴの道も住民の皆さんで清掃・管理されていることに感銘を受けた。ここでは、18歳で自動的に会員となる。また、幾つかの地区で、古い建物を使ったシェアオフィス、カフェ、宿泊施設等、現代的な使い方も見られた。恵那市岩村地区は、NHK朝ドラ「半分青い」のふくろう商店街としてロケ地になったそうである。

それぞれの地区に固有の歴史があり、住民の人たちの熱い思いが重伝建地区を支えている。当たり前かもしれないが、見聞きし、実感したこの半年は、記憶に残る半年になるう。

調査は、横浜市増田地区、東御市海野宿地区、佐渡市宿根木地区、南木曾町妻籠地区、恵那市岩村地区、高山市三町地区、若狭町若狭熊川宿地区、豊岡町出石地区、内子町八日市護国地区、八女市八女福島地区、竹富町竹富島地区の計11地区。



2018年度

日本建築学会大会若手優秀発表賞

小島寛之（平成30年度修了）

昨年に続いて、建築学会大会（今年度は仙台で開催）での発表を表彰して頂きました。アンケートに協力して頂いた自治体の方々や指導教員である山口先生や尹先生など、私の研究に関わった全ての皆様に感謝申し上げます。

本研究は、人口減少時代の都市に対応すべく創設された立地適正化計画制度の初期の活用動向を全国アンケートから調査研究したものです。建築学会大会での受賞は結果的に2年連続となり大学院での研究活動は充実したものになりました。また、学部・院を通してコンパクトシティ・プラス・ネットワークというテーマに出会い向き合えたことが大きな財産となり、これからの活動の礎にできました。4月からは実務と研究が行える環境に身を置かせて頂けることになったため、今後も研究活動の成果を発表できるよう、都市計画に対する自己研鑽に努めてまいります。



建築設計～クリニックの設計～

小林 紗菜（学部4年）

6セメスターの建築設計では、宮城女子学院大学の須田眞史准教授と本校の浅野先生のご指導のもと、卒業設計の練習として、クリニックの設計に挑みました。

診療科目は自由に決めることができ、私は小児科とし、子供が病院というネガティブなイメージを払拭し、病気であることを忘れるような空間、また親も安心できるような空間を創造することをコンセプトとし、設計に励みました。雰囲気や和らげ、死角を減らし子供が動き回っても安全に過ごせるよう、内部の壁に曲線を多く使い、子供に不安を与えないようにするため、医療機器やスタッフの動きがあまり見えないようなスタッフ導線を考えました。医療施設ということで、考えることが多く大変でしたが、身近な施設について考えるいい機会となりました。今後は卒業設計に向けて頑張ります。



千葉 春輝

サービス付き高齢者向け住宅の居住者交流に着目した施設間連携の研究
—秋田市における全27施設を対象として—

中嶋 洸太

立地適正化計画策定会議における論点の分析
—3都市の議事録から全体の論点と各回の論点の変化に着目して—

高橋 瑞

学びのシェア —まちなかキャンパス計画— (卒業設計)

本間 匠

明治初期の北前船寄港地・石脇の市街地構造及び機能に関する研究
—明治6年石脇地引帳より—

立地適正化計画策定会議における論点の分析

—3都市の議事録から全体の論点と各回の論点の変化に着目して—

中嶋 洸太

1. はじめに

我が国は急激な人口減少、少子高齢化の時代を迎え、都市を持続可能なものとしていくためには、都市全体の観点からの取り組みを推進する必要がある。その1つとして、立地適正化計画が挙げられる。本計画が機能するためには、計画策定時に何が論点となったかが重要である。

そこで、本研究ではその基礎的作業・分析として、策定会議での頻出上位語に着目して論点とその変化を明らかにし、それに関する背景や理由を考察することを目的とする。

2. 研究方法

議事録をテキストファイル化し、KH Coder に取り込む。その後、「品詞別頻出上位語リスト」「共起ネットワーク」を作成する。これらの表から、3都市の結果を比較・分析する。分析を行うにあたり、名詞、地名、タグ、動詞、サ変名詞を分析の対象とした。タグは、KH Coder の上で分解される語を強制的に1語として取り出した品詞である。サ変名詞は、語の後に「～する」が付くと動詞化する名詞である。

3. 研究結果

品詞別頻出上位語リストの分析は、特徴的な語が特に現れた地名に着目して行う。表1をみると、秋田市、菊池市でそれぞれ「雄和」「旭志」が出現している。議事録を精読すると、両地区とも拠点に含めるか、拠点の方針をどうするかについて議論となっていた。両地区の共通点は「市内でも特に人口減少、少子高齢化が問題となっている旧市街地」という点である。誘導区域指定にあたり、このような地区の扱いは議論となりうるようになった。菊池市では、「泗水」が出現している。議事録を精読すると、同地区は熊本市内に近く、市内で唯一人口が増加している地区であることが明らかになった。誘導区域の指定には、周辺の市との関連も考慮することが重要であることが考え

られる。

図1で、3都市の特徴的な共起の塊を抽出した。秋田市、岐阜市はどちらもバスを中心とした共起になっており、議事録を精読すると2市のバス路線に対する姿勢の違いが明らかになった。BRTを導入している岐阜市では、公共交通関連の整備に対して積極的な姿勢がうかがえた。菊池市は事業の共起になっており、区画道路の整備事業について議論がなされたことが分かる。議事録を精読すると、宅地化の手法として同事業が議論になっていた。菊池市では区画道路の整備による居住の誘導を図っていることが明らかになった。

表1 地名の頻出上位語リスト (全会議の合計)

秋田市		岐阜市		菊池市	
地名	出現回数	地名	出現回数	地名	出現回数
秋田	85	岐阜	47	菊池	30
雄和	16	富山	11	旭志	21
土崎	8	熊本	10	泗水	11
御所野	6	—	—	隈府	8
—	—	—	—	熊本	7

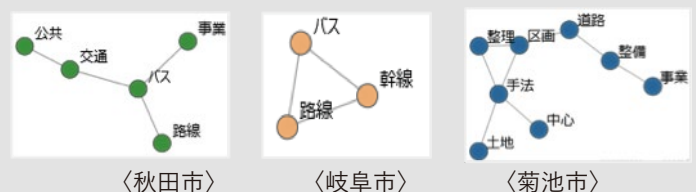


図1 3都市の共起ネットワークの抽出

4. まとめ

本研究ではテキスト分析を行い、議事録の論点とその変化を明らかにしてそれに関する背景や理由を考察した。品詞別頻出上位語リストからは、人口減少、少子高齢化が特に問題となっている地区、周辺の市との関連で人口が増加している地区の拠点方針が論点となったことが明らかになった。共起ネットワークからは、公共交通に対する姿勢の違いや、区画道路整備事業による居住誘導の意図が明らかになった。

小島 寛之

コンパクトシティ指標を用いた地方都市における都市内の拠点設定に関する研究
—人口・事業所数の集積状況の分析を通して—

須田 一陽

住民まちづくり委員会の地域マネジメント活動による沿道空間形成の研究
—由利本荘市の都市計画道路整備事業を通して—

住民まちづくり委員会の地域マネジメント活動による沿道空間形成の研究 —由利本荘市の都市計画道路整備事業を通して—

須田 一陽

今日、我が国の都市計画道路は総延長約 6.4 万 km のうち、整備に未着手である区間は約 2.0 万 km であり、割合にして 31.7% となっている。長期の間未整備となっている路線も多く、各地方自治体において都市計画道路の整備の見直しが行われている。

また、2006 年に我が国の人口がピークに達し、高齢化社会を迎え、コンパクトシティや成熟した社会へと目標像を転換する動きが出てきた。この時代変化に伴い、道路に関しても景観、環境、高齢化社会への対応のニーズが発生した。故に都市計画道路の整備の見直しを市街地再生の契機とするため、将来の交通需要予測のみならず、都市の将来像やまちづくりとの整合性を反映する複合的視点が求められている。とりわけ景観形成においては人口減少や地方分権の進展により、観光振興や地域活性化の点から重視されている。

本研究では、秋田県由利本荘市の中心市街地において、都市計画道路整備事業を契機とした沿道空間形成の実現に向け、住民組織であるまちづくり委員会が取り組んでいる建築誘導などの地域マネジメント活動を分析し、沿道空間形成の実現に関して考察することを目的とする。

本研究においては、由利本荘市の大門・本町通りを対象とし、まずまちづくり委員会の主たる地域マネジメント活動である建築審査の運用実態を分析した。この建築審査は沿道住民間で締結された「まちづくり協定」に基づいたものである。さらに、沿道住民間で発生している土地の売買が計画実現へ如何に作用したかを分析し、最後に、これらの地域マネジメント活動による沿道空間形成の実現に関して考察を行った。結論は以下の通りである。

まず、建築審査の実効性に関しては、まちづくり協定は法的担保力がないため、委員会は建築主に対して協定の遵守を強制することはできないが、「条件付き適合」という言葉を用いることで、適合に近づけようとする柔軟性が窺えた。一方で、委員会は住民（建築主）との信頼関係の下でこのように柔軟な対応をしているが、その条件を守らなかった件が存在していることが明らかに



図1 まちづくり協定で定められている色彩の組み合わせ



図2 駐車場による景観阻害への対処として前面に植栽が設置された事例



図3 道路拡幅に伴い建て替えが行われた事例

なった。対処法として、協定の条文に「完了検査後に委員会が確認し、規定に反した建築物には是正措置を執ることができる」といった項目を追加することが挙げられよう。

また、まちづくり委員長がまちづくりの主旨に基づき、土地の売買・移転に際し情報提供・相談・助言をしていることが明らかになった。展望として、この活動を委員会や住民説明会で報告し、沿道地権者で情報を共有するなど、委員会の活動としてシステム化することが挙げられる。ただしその場合、情報提供の公平性や、委員会の守秘義務を徹底しなければならぬ点で課題が残る。

以上のように委員会はルールの画一的適用にとどまらず、柔軟な誘導手法を用い、かつ住民に身近な対応を行うことにより、目標とする沿道空間形成における実現可能性の向上に寄与していると考察した。

これは、官民一体となってまちづくり活動を進めていく上で有用な示唆となる。

都市・地域計画ゼミ版～ボクらの時代～

鼎談 山口邦雄 教授 × 尹 元特任助教 × 小島寛之 (30 年度修了)

山口：まず始めに、尹先生は横浜国立大学に戻ることにになり、小島君は東京で都市計画の実務と研究を進めることになったというので、ここ数年について私を加えた 3 人で少し振り返りたいと思います。

まず尹先生、秋田の 2 年間の収穫はなんだったでしょうか？

尹： 私にとっての大きな収穫は日本の地方都市で生活したことで、都市を見る視点がちょっと広がった事です。韓国、横浜、由利本荘市で生活したことで、2年間を通して実際の問題とかも直接見たので、横浜に戻るにあたって「一つ宿題を持って帰る」という考えですね。

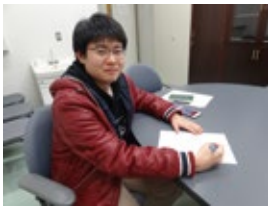


山口：私もここにきて色々わかったことがあります。さて、秋田県立大学のいいところはなんですか？

尹： まず、学生数が少ないですね。すごく学生との関わりが深くて学生の研究に濃密に議論できるのはいいなって思います。あと、学生が先生に申し込んで行う自主研究というものがあり、意志がある学生が研究できるっていうのはすごく面白いなって思いますし、経験することで後々卒論とかにも生かせる事前のトレーニングにもなるのかなと思います。

小島：尹先生は出身や経歴から、様々な経験をお持ちだと思うのですが、以前おっしゃっていた、まちづくりと都市計画の中間領域での新たな研究の展開っていうのは何か考えていらっしゃいますか？

尹： 大門本町通りのまちづくり協定や石脇の活動のような地域の動きが、まちづくりや都市計画の中にどう位置付けられていくかは常に考えていくテーマかなと思っています。ここで立地適正化計画っていう都市レベルの計画の研究もやったので、そういう都市レベルの話と地区レベルの話はずっと研究を続けて、それをどう連携させていくのかっていう仕組みづくりを考えています。



山口：次に小島君、学生生活 6 年間は楽しかったとは思いますが、どうでしたか？もちろん研究で行っているんですけど、趣味も兼ねていて、そういう活動ができたことが一番良かったです

小島：研究や趣味など、全部に全力で取り組めた 6 年間かなと思います。その中でも、学会発表やヒアリング調査とかで各地を訪れて実際に都市を体感するっていうのが一番楽しかったですね。

尹： 小島くんは、日本建築学会若手優秀発表賞を 2 回も受賞しています。研究成果の発表の時に、心構えというか何を重視しているのかが気になりました。

小島：まず、研究の内容はもちろん、研究の前段の背景の部分を含めて、全部を自分の中で全て納得してから発表に望むことが一番だと思います。あと、僕は原稿を書いて読み上げるので、そんな時でも視線を上げて誰かの目を見て、会場の雰囲気を読みながらプレゼンすることは心がけていますね。

尹： 発表の後の質疑応答もすごい重要だと思うんですけど、たまに反対意見に強い反対姿勢を示すことがあるよね。わざとそうして自分の軸をぶらさないようにしているんですか？

小島：それは意識してますね。研究の発表では自分の軸に乗って主張した方が相手にも失礼がないのかなとは思ってます。せっかく質問してきてくれたことに対して、真正面から返したいというのは気持ちとしてありますね。

尹： 山口先生にとって東京で実務についていた頃の経験が、今の研究または教育にどう影響しているのかを伺いたいです。

山口：私が務めていたところは、できないという話ではなくて、とにかくやれという雰囲気。だから一通りのことはやったと思うんですね。そういう意味でいうと私の研究は実務応用性を重視しています。あとは、教育については幅広く指導はできるのかなと。今では、都市計画はもちろんのこと、信じられないと思うけど歴史も教えているし。この辺が研究や教育をやっている中で自分の視点になってるかなと思います。

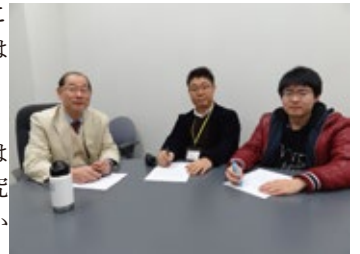


尹： もう一点、今の時代最も厳しい秋田で都市計画を審議会の会長として率いる立場として心がけていることはありますか。

山口：秋田にいるから秋田ばかりでは次の展開はないし、一方で国の法律とかは地方のことが念頭に薄いから、中央の論理で全部整理しようと思っている。国の大きな流れを理解し、法制度の本当の趣旨も理解し、一方で地方都市の実状に沿ったことをやるという事は常に頭にはありますね。

小島：山口先生の経歴から見て、計画策定をはじめとする実務を行う立場にあるものが研究を行うことの意義や役割を先生がどう考えておられるのかっていうことと、学術から発信することと実務から発信することの最も大きな違いを伺いたいです

山口：実務は設計と同じでわからなくても提案しなければいけないので、問題意識はシャープになるんだろうと思います。だから実務者が行う研究は常に問題を先取りして、整理ができていない荒野みたいところを素材にして、その地域や問題に合ったものを課題として考えるということだと思う。そういう意味では『事件は現場で起こっている』そんな気はするよね。そういったところで、尹先生は横国大に戻るということで研究、教育の抱負は何かありますか



尹： 2年間の秋田での経験を大切に、地方都市の宿題を解き続けるということ意識しながら、今後の研究に携わりたいです。横浜市もいろんな問題を抱えていて、そういう現場での実践の取り組みもやりたいなということ、それも踏まえて教育もしっかりとやっていきたいなと思っております。

小島： 石脇の祭りや、ニュースレター、あとは小さい事ですけど議事録を毎回とることも是非残して欲しいと思います。ゼミで山口先生がおっしゃっていた「歴史の浅い大学だけど歴史は作るものだ」ということが印象に残っていて、どういう形でも継続していくのが基本なのかなと思いますね。

山口： さて小島君、ゼミとして、後世に残しておいて欲しいことはどんなことがある？

山口： ありがとうございます。今後は別々となりますが、それぞれの持ち場で研究・活動を発展させていきましょう。

卒業生・修了生から



《学部生》

高橋 瑞 (JR 東日本)

- ①本荘駅前市場
- ②バイト先のもつ煮込み
- ③夏にスイカを食べたこと
- ④先生方、同期、後輩のみなさん、充実した日々をありがとうございました。



- ①本荘思い出の場所
- ②本荘思い出の一食
- ③ゼミ活動の思い出
- ④コメント

千葉 春輝 (前田建設)

- ①牛角由利本荘店
- ②県大井
- ③別荘での、BBQ
- ④出会いを大切に!!



中嶋 洸太 (日本工営)

- ①石脇通り
- ②学食のカレー
- ③多くの活動を通じてゼミ生の皆さんと交流できたこと
- ④先生方やゼミ生の皆さんと出会えたことで、充実した学生生活を送ることが出来ました。約2年間お世話になりました。ありがとうございました。



本間 匠 (JFE コンフォーム)

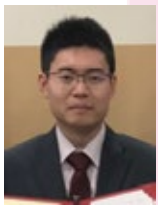
- ①鶴舞温泉。安くて気持ち良かったです。
- ②学食のカレーライス。カレーが好きでいつも食べていました。
- ③ゼミ合宿。すごく楽しかったです。
- ④今まで本当にありがとうございました。



《修士生》

小島 寛之 (計量計画研究所)

- ①羽後本荘駅 (終わりも始まりもここから)
- ②松韻 (天然かん水のみのは珍しい)
- ③たんころりん (自分の心も照らしてくれました!)
- ④都地ゼミの様々な活動をこれからも頑張っていくてください。歴史は作っていくものです。



須田 一陽 (協和コンサルタンツ)

- ①三望園の不気味な夜道
- ②はまはまの鯖と唐揚げ、松韻のラーメン
- ③石脇浴衣祭りでの北前船乗船(?)
- ④社会に出てからも持ち前の「負けん気」を存分に発揮してまだまだ成長します。今まで本当にありがとうございました。



祝賀会

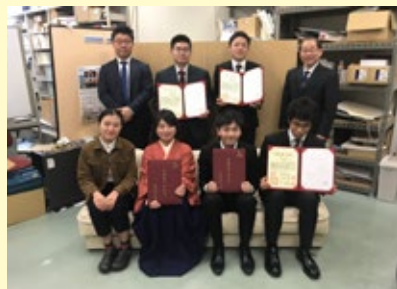


3月20日の卒業式の後、ホテルIRISで祝賀会が開かれ、授業や研究などでお世話になった先生方と語り合う濃密な時間を過ごしました。各講座の代表の先生からの一言は心に残るもので、特に「君子の交わりは淡きこと水の如し」という言葉はすごく印象に残りました。仕事で様々な人と出会い、いろいろな関係ができると思いますが、参考にさせていただきたいと思います。さすが、山口先生です。

また、卒業生、修士生も最高の仲間達と、この大学生活の思い出を振り返り、語り合う楽しい会でした!

最高の4年間をありがとう!!

(コメント：千葉春樹 撮影：小島寛之)



◀ 都計ゼミ卒業生と教員



祝賀会にて▶

OB・OG紹介

13期卒業生 和賀 剛志 (株式会社オオバ 東北支店 まちづくり部)

皆さんこんにちは。13期成の和賀剛志と申します。
このような貴重な機会をいただき大変嬉しく思っております。

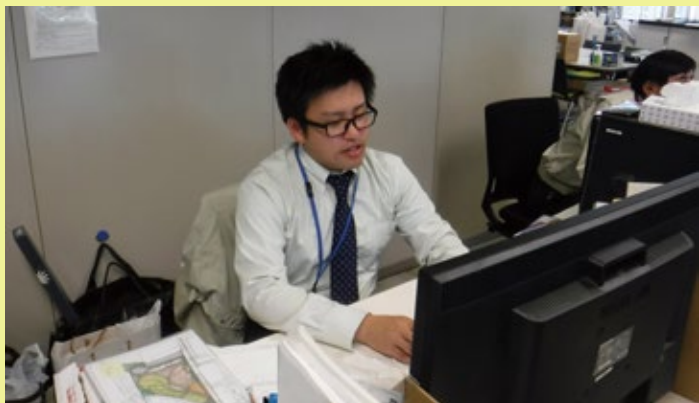
私は現在、建設コンサルタントという業界の中で働いています。主に施工を担うのが建設業に対し、建設コンサルタントは、主に設計（調査、計画、設計まで）の段階を担う建設関連業に位置付けられています。土木全般に関する幅広い知識が必要となるので、入社5年目の今でもわからない事が沢山あり、勉強不足だと日々痛感しています。

仕事内容は計画からCMまで幅広くあります。その中で私は、主に面開発整備という大枠の中で、宅地・工業団地の造成設計

や、開発を行う上で必要となる許認可申請の手続きなどを行っています。仕事柄、民間企業と官公庁との板挟みになるケースが多く、課題山積みで泣きたい時もありますが、発注者の期待以上の成果となるよう日々奮闘しています。

近年、都市アメ研から同業種の就職先が増えていると聞きました。必ずしもやりたい事が出来るとは限りませんが、まちづくり事業のパートナーとして頼りにされる存在であることは確かです。この業界に就職しているOB・OGはまだ少ないので、興味のある方は山口先生を通じて気兼ねなくご連絡ください！

最後に、在学中に関わった石脇地区の活動進捗を含め、都市アメ研の活動報告を楽しみに待っております。



▲仕事中的様子



▲社員の方々との飲み会風景

16期生の桂さんも参加しています！

都市計画学会 in八戸

今年度は、尹特任助教が空き家調査に関する成果を報告したほか、学生からはM2の小島と須田、B4の中嶋が卒論・修論の内容を中心とした題目で発表しました。また、発表会に加え開催地である八戸市の見学では、全国的に注目されている八戸ブックセンター（自治体直営の書店は離島を除けば全国初）がやはり印象深いものとなりました。小さな書店では扱いづらい専門書などを集めるセレクトブックストアであり、採算性を求めるものではなく市民が新たな知と出合う場の提供が目的であり、随所に様々な空間的な仕掛けが施されていました。



(30年度修了 小島寛之) ▲八戸ブックセンターにて

冬祭りin矢島

2月9日に矢島駅前にてやしま冬まつりが催されました。天寿酒造と佐藤酒造店の酒蔵が解放され、来場者は日本酒を片手に酒蔵の見学や子供たちの遊ぶ姿を楽しんでいました。

今年は友好都市である香川県丸亀市も出店しており、本大学院修士2年の田代大賀さん（材料学講座）が設計した丸亀城をモチーフにしたモニュメントが展示され、前日8日の夜には美しくライトアップされました。



▲天寿酒造前で賑わう人々

▼丸亀城モニュメント



編集後記

今回のN.L4号の作成に際し、ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。また、先生方や先輩方にもご指導を頂き、大変お世話になりました。

今後も、都市・地域計画ゼミの活動を本活動を通して発信していきますので、N.Lのご愛読のほどよろしくお願い致します。

<2019.5.15 N.L編集部> 菅原卓矢 小林紗菜 斎藤蓮 山口邦雄

Address

URPS 編集部
〒015-0055
秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4
秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科
☎: 0184-27-2053 e-mail: yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp
担当 山口 邦雄